

今年度の課題を視察 常任委員会県外研修

各常任委員会は、県外の先進市を訪問し、視察研修を行いました。

民生委員会

7月23～24日、委員7名全員で富山県氷見市と石川県内灘町で研修を行った。

氷見市では、地域活性化と団塊世代の対策と取組み、いきいき元氣館で大人の健康づくりについて事例と説明を受けた。市外の団塊世代の人で、新たな移住を考えている人に「氷見市空き家情報バンク」を積極的に紹介。コミュニケーションの柱として、新たな移住者に期待しているとのことだった。本町も団塊世代の居場所（働く）、環境づくりを考え、地域活性化を図ることの必要性を感じた。

また氷見市いきいき元氣館では、「氷見市健康大学」の取組みの説明を受けた。「氷見市健康大学」は、市民1人ひとりが



カンガルーム内灘



子育て支援について研修

心身の健康づくりに関心を高め、自らの生活習慣を見直し、健やかで実り豊かな人生を目指して積極的に学び、自ら行動することを目的としている。市内21カ所の公民館・コミセン等で実施され、高齢者が参加しやすいよう工夫もされている。健康を維持・増進するスポーツの組織づくりとして、「総合型地域スポーツクラブ」が、2つ組織化されている。楽しみながら健康づくりを行う「氷見市民健康大学」は、参考になった。

2日目は、石川県内灘町子育て支援センター「カンガルーム内灘」で研修。

乳幼児の遊びや、読み聞かせ、親同士の情報交換、育児に関する相談や各種の講座も活発に開かれ、親子で楽しく学び・遊べる環境となっている。スタッフは保育士4名と保育補助数名で対

応し、保護者も積極的に参加し、保護者同士の仲間づくりにも役立つとしている。利用者の滞在時間は2～3時間程で、年齢は0～2歳児。50%が町外からの利用だが、利用料金は無料となっている。充実した施設の中で役割を果たしていることを感じた。
(近藤鑛治委員長)

経済建設委員会

7月30～31日、委員6名で鈴鹿市及び名張市において行政視察並びに研修を実施した。鈴鹿市では、①NPO支援②太陽光発電③自立型農業の3テーマを研修した。

NPO支援については10団体にに対し、1団体10万円を上限に補助。この1補助団体がNPO支援講座を実施のため、行政にはない視点やネットワ



もりた農園にて



名張市役所で説明をうける

ークという点で効果がある。また外国人支援のため、通訳や翻訳サービス、IT講座などNPOが担っている。NPOの組織化や継続的に定着した活動、また自治区等との連携が今後の課題である。

太陽光発電は、平成13～20年度まで30件の補助。平成21年度はHV自動車への補助300件を重点に実施。公共施設は、市庁舎・分署で45kWh、避難緑地公園のソーラー照明灯を設置。今後は建物更新時に、逐次導入していく方針。

自立型農業については、脱サラで農業を行っているもりた農園を研修。地産地消を中心に、固定客をターゲットにハウス栽培で、家族でできる農業規模としている。販路確保のため、スーパー勤務の経歴が生かされている。農業で